

日医発第1160号（保285）
平成31年2月6日

都道府県医師会長 殿

日本医師会長
横倉義武

検査料の点数の取扱いについて

新たな臨床検査1件（E3（新項目））が保険適用され、それに伴い、今般、厚生労働省保険局医療課長から添付資料1のとおり取り扱う通知が示され、平成31年2月1日から適用となりました。

本通知の内容について、本会において添付資料2のとおり整理いたしましたので、貴会会員に周知くださるようお願い申し上げます。

本件につきましては、日本医師会雑誌4月号に掲載を予定しております。また、日本医師会ホームページのメンバーズルーム中、医療保険の「新たに保険適用が認められた検査・医療機器等」に掲載いたします。

（添付資料）

1. 検査料の点数の取扱いについて
（平31. 1. 31 保医発0131第4号 厚生労働省保険局医療課長）
2. 新たに保険適用が認められた検査（日本医師会医療保険課）

保医発 0131 第 4 号
平成 31 年 1 月 31 日

地方厚生（支）局医療課長
都道府県民生主管部（局）
国民健康保険主管課（部）長
都道府県後期高齢者医療主管部（局）
後期高齢者医療主管課（部）長

】 殿

厚生労働省保険局医療課長
（ 公 印 省 略 ）

厚生労働省保険局歯科医療管理官
（ 公 印 省 略 ）

検査料の点数の取扱いについて

標記について、「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」（平成 30 年 3 月 5 日付け保医発 0305 第 1 号）を下記のとおり改正し、平成 31 年 2 月 1 日から適用するので、貴管下の保険医療機関、審査支払機関等に対して周知徹底をお願いいたします。

記

別添 1 第 2 章第 3 部第 1 節第 1 款 D 0 0 6 - 7 を次のように改める。

- (1) UDP グルクロン酸転移酵素遺伝子多型は、塩酸イリノテカンの投与対象となる患者に対して、その投与量等を判断することを目的として、インバーダー法又は PCR 法により測定を行った場合、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に 1 回を限度として算定する。
- (2) N u d i x h y d r o l a s e 15 (NUDT15) 遺伝子多型検査
ア N u d i x h y d r o l a s e 15 (NUDT15) 遺伝子多型検査は、区分番号「D 0 0 6 - 7」UDP グルクロン酸転移酵素遺伝子多型の所定点数に準じて算定する。

イ 本検査は、難治性の炎症性腸疾患、急性リンパ性白血病等の患者であって、チオプリン製剤の投与対象となる患者に対して、その投与の可否、投与量等を判断することを目的として、リアルタイムPCR法により測定を行った場合、当該薬剤の投与を開始するまでの間に1回を限度として算定できる。

◎「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」(平成30年3月5日付け保医発0305第1号)

改正後	現 行
<p>別添1</p> <p>医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第2章 特掲診療料</p> <p>第3部 検査</p> <p>第1節 検体検査料</p> <p>第1款 検体検査実施料</p> <p>D006-7 UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型</p> <p>(1) UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型は、塩酸イリノテカンの投与対象となる患者に対して、その投与量等を判断することを目的として、インベーター法又はPCR法により測定を行った場合、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定する。</p> <p>(2) <u>N u d i x h y d r o l a s e 15 (NUDT15) 遺伝子多型検査</u></p> <p><u>ア N u d i x h y d r o l a s e 15 (NUDT15) 遺伝子多型検査は、区分番号「D006-7」UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型の所定点数に準じて算定する。</u></p> <p><u>イ 本検査は、難治性の炎症性腸疾患、急性リンパ性白血病等の患者であって、チオプリン製剤の投与対象となる患者に対して、その投与の可否、投与量等を判断することを目的として、リアルタイムPCR法により測定を行った場合、当該薬剤の投与を開始するまでの間に1回を限度として算定できる。</u></p>	<p>別添1</p> <p>医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第2章 特掲診療料</p> <p>第3部 検査</p> <p>第1節 検体検査料</p> <p>第1款 検体検査実施料</p> <p>D006-7 UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型</p> <p>UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型は、塩酸イリノテカンの投与対象となる患者に対して、その投与量等を判断することを目的として、インベーター法又はPCR法により測定を行った場合、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定する。</p> <p>(新設)</p>

新たに保険適用が認められた検査

平成 31 年 1 月 31 日 保医発 0131 第 4 号（平成 31 年 2 月 1 日適用）

No.1

測定項目	Nudix hydrolase 15(NUDT15)遺伝子多型検査
販売名	MEBRIGHT NUDT15 キット
区分	E3（新項目）
測定方法	リアルタイムPCR法
主な測定目的	全血から抽出したゲノムDNA中のNudix hydrolase 15(NUDT15)遺伝子多型の検出（NUDT15活性低下症例における治療選択の補助）
準用点数	D006-7 UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型 2,100点
関連する留意事項の改正	<p>※「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」（平成30年3月5日付け保医発0305第1号）の別添1（医科診療報酬点数表に関する事項）の第2章（特掲診療料）を次のように改める。（変更箇所下線部）</p> <p>第3部 検査 第1節 検体検査料 第1款 検体検査実施料</p> <p>D006-7 UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型</p> <p><u>(1) UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型は、塩酸イリノテカンの投与対象となる患者に対して、その投与量等を判断することを目的として、インバーダー法又はPCR法により測定を行った場合、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定する。</u></p> <p><u>(2) Nudix hydrolase 15 (NUDT15) 遺伝子多型検査</u></p> <p><u>ア Nudix hydrolase 15 (NUDT15) 遺伝子多型検査は、区分番号「D006-7」UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型の所定点数に準じて算定する。</u></p> <p><u>イ 本検査は、難治性の炎症性腸疾患、急性リンパ性白血病等の患者であって、チオプリン製剤の投与対象となる患者に対して、その投与の可否、投与量等を判断することを目的として、リアルタイムPCR法により測定を行った場合、当該薬剤の投与を開始するまでの間に1回を限度として算定できる。</u></p>

（日本医師会医療保険課）